



# なきごえ



1995

4



## New Face

(撮影：小林 崇宏)

- 2 — New Face ハワイガンのヒナふ化 (小林 崇宏)
- 3 — 動物と私 動物の進化 (竹中 修)  
カバウォッチング エランド (堀内 智生)
- 4 — 身近な夜行性動物⑦ 大阪の夜行性動物 (池田 裕計)
- 6 — 退職にあたって (中山良三郎、吉岡照明、小谷千代治)
- 8 — グラフZOO 私は誰〜れ?? (長瀬 健二郎)
- 10 — 獣医室から⑥ (竹田 正人)
- 11 — ZOO DIARY

### カバウォッチング

エランド  
ウシ目 ウシ科

*Taurotragus oryx*

中央アフリカおよび南アフリカの草原あるいは砂漠に、数頭から100頭の群れで生活しています。レイヨウの中では大きい方で、大きなものでは体長が3.4mになるものがあります。

(撮影：堀内 智生)

## ||||| 動物と私 |||||

### 動物の進化

この地球上には実にさまざまな動物がすんでいます。よくにている動物もあればにている動物もいます。例えば家のまわりにいるネコと森にすむトラとは大きさはずいぶんと違いますが、テレビで見るトラの獲物にしのびよる格好と、ネズミを狙うネコのそれとはよくにています。実際彼らは食肉目ネコ科に分類されています。私達ヒトとはずいぶんと違います。しかし私達と共通する特徴もあります。それは赤ん坊は母乳で育つという特徴です。ヒトもネコもトラも哺乳類という分類に属しているからです。哺乳類は恐竜達が滅んだ後、急に進化を始めました。約6500万年前のことと考えられています。そして早くからお互いに違った方向へ進化した動物はそれだけ違っています。進化の歴史で比較的最近に別れた動物ほどよくにているのです。どうしてそういう進化が起こるのでしょうか。そして私達にもっとも近い動物は何でしょうか。

その答を探る鍵になる物質があります。遺伝子DNAです。DNAはデオキシリボースと名づけられた糖とリン酸とが交互に並び、その糖に塩基と呼ばれる分子が結合している、非常に細長い分



竹中 修さん

(京都大学霊長類研究所教授)

子です。生命の設計図と考えれば良いでしょう。私達の時間感覚では、親から子へ正確に伝えられますのでカエルの子はカエルです。しかし全く正確かといいますとそれはそうではないのです。DNAは少しずつ変化するので。気の遠くなるような進化の長い時間ではずいぶんと変わってしまいます。生命の設計図そのものが変わるのでから動物もずいぶんと変化してしまうのです。この15年くらいの間にこのDNAの研究が飛躍的に進みました。上に述べた塩基の並び方を明らかにすることが可能になりました。そして塩基の並び方はどうやら時間に比例して変化することも分かってきました。このことは逆に比べたい二種類の動物でDNAを比較すればその二種類の動物が別れた年代が推定できるのです。

さて私達に一番近い動物はなんでしょうか。それはチンパンジーのようです。ある遺伝子の構造からの計算によれば、私達ヒトとチンパンジーが別々の方向に進化し始めたのは約500万年前とのことです。人類化石の研究結果からはその時代のヒトの祖先の脳は500cc位でチンパンジーやゴリラの脳の大きさと変わりはありませんでした。現代のヒトの脳は千数百cc容積があるとのことで、ヒトの進化の過程で脳が大きくなったようです。しかし驚いたことにヒトとチンパンジーのDNA違いは1から2%にすぎないのです。オランウータンとは3から4%の違いがあります。動物の分類群が異なるヤギとの差、40%に比べるとずいぶん小さな差です。私達のすぐそばに非常に近い親戚がいるということになります。でもやはりヒトはヒト、チンパンジーはチンパンジーです。この1から2%の差の生み出す生命の不思議が明らかになるのはいつのことでしょうか。

(たけなか おさむ)

### ← ハワイガンのヒナふ化

1月23日に4羽のヒナがふ化しましたが、1羽のみが順調に育っています。昨年、一昨年とふ化はするもの育っていませんので、今年は期待しています。



**夜**行性動物とはどんな動物かをまず考えてみましょう。夜とは気象用語では日の入(太陽の全てが地平線に入った時)から日の出(太陽の頭が地平線より上がった時)までの間のこととなりますので、その範囲内で活動する動物が夜行性動物ということになります。しかし、コウモリやムササビのような完全な夜行性動物もあれば、シカやタヌキのような昼間も活動する夜行性動物もあります。後者の夜行性動物は二光型といわれ薄暮タイプと黎明タイプがあります。発情期のオスジカや奈良公園のような特殊な環境に生息するシカでは一日中活動するものも少なくありません。

昼行性、夜行性にかかわらず動物は環境と深い係わりをもって生きています。まわりのあらゆる環境に悪影響をもたらしながら自分自身の生活の場を広げているのが現在の人間です。人間はこのことを今一度真剣に考える必要があるでしょう。

**そ**れでは、なぜ、街に野生動物が少ないのでしょうか?この間は単純なようで非常に難しい問題です。例えば奈良公園には野生のシカがたくさん生息しています。しかし、環境の変化に弱いブナ林さえ残っている生駒金剛国定公園にはなぜ野生のシカがいないのでしょうか。また、住宅街が続く、観光地としても有名で、人も車も多い箕面にはサルやシカまでいるのに、樹の種類も多く、広く美しい森が見られる大阪城公園にはなぜ野生動物が少ないのでしょうか。このように環境の質は、人との係わりの歴史により異なり、見かけでは判断できません。

現在、大阪市24区内にはどんな野生哺乳動物が生息しているのでしょうか。都市再開発事業などによって、古い木造住宅が高層ビルやコンクリートの建物に立替えられたり、田畑がなくなり空き地などもアスファルトやコンクリートに被われつつあります。そのため、15年以上前と現在では大きな差があります。最新の「大阪のみどり生き物 1993」(大阪市環境保健局環境管理課発行)にはイタチの仔、チョウセンイタチ、コウモリの3つの記録しか見当たりません。また、本誌のこのシリーズで恩地実先生の記事にハツカネズミ(西淀川区矢倉海岸)の記録があり

ます。それと、私がここ5年間に、淀川区の狭いながらも植え込みの多い古い家屋のある地域で、目撃した野生哺乳動物には、野イヌ、野ネコ、イタチ(亜種不明)、コウモリ(種不明)、ドブネズミ、クマネズミ、ネズミ(種不明)があります。その他、モグラ塚(種不明)を旭区の城北のワンド付近で、カヤネズミの巣を東淀川区のヨシ原で見えています。最近では目撃していませんが、生息の可能性のあるものに大阪城公園のタイワンリスがあります。

このように都市に生息する哺乳動物は種類が少なく、小・中型の動物に限られています。これら都市型野生動物の特性には、人の手が届かない狭い隙間を利用できるように体が小さいこと、未知の食べ物でもいち早く食べるようになる適応性を持つこと、人の出入りの少ない場所や時間を見抜く能力を持つことなどがあげられます。いかに早く限られた環境に順応できるかが、生きて行くための条件なのです。

**次**に大阪府全体に範囲を広げてみましょう。地理的構造からみると南から東へ和泉山脈、紀泉山脈、金剛葛城山脈、信貴生駒連山があり、そこから少し淀川でとぎれ、島本町の天王山から始まり、ポンポン山を主峰にした高槻市の連山を経て、茨木市の竜王山、箕面市や豊能町の北方面に広がる北摂山塊へとつながります。そして池田市の五月山で山地は途切れ、西方面は猪名川に沿って市街地が大阪湾へと広がっています。即ち山々が大阪平野を囲んでいることとなります。この山々は大阪市内に比べて豊かな自然が残っており、大阪平野を守るグリーンベルトの役目もしています。

この地域の野生哺乳動物については(社)大阪自然環境保全協会の里山一斉調査の報告書(動物)があります。大阪府境の山をくまなくとまていきましたが要所をとらえ1983年から毎年行われています。それによると1994年までに確認された野生哺乳動物はシカ、イノシシ、キツネ、タヌキ、イタチ、テン、リス、ムササビ、ノウサギ、モグラ、ヒミズ、ノネズミ、野イヌ、野ネコがあります。その他「都市と自然」、「ナチュラリストだより」(以上大阪自然環境保全協会発行)には豊能町等でアナグマ、カヤネズミ、ハタネズミ、アカネズミ、ヒメネズミ、アブラコウモリ、キクガシラコウモリが記録されています。

山域には、まだ大きな生態系が残っていますが、現実には楽観できません。なぜなら一昔前の開発は山裾が主であり、野生動物の逃げ場もありました。



モグラ塚(高槻へび谷)

しかし、現在の開発は山裾と山頂部の両方から始まったり、山そのものを取り除いてしまう大規模な開発が短時間に、それもあちこちで進んでいるからです。

逃げ場を失った動物たちは市街地や畑、造林地などへ行くしかありません。そこで畑を踏み荒らしたり、作物を食べたりするので、有害鳥獣駆除の対称になったり、狩猟獣に指定され捕殺されることとなります。また、密猟や交通事故などでも一年中どこかで人間に殺されているのです。早急に彼らの生息できる地域を確保することが必要です。

**新**しい地域に生息地を広げた動物とその環境の変化についての例を紹介しましょう。場所は大阪府高槻市原にある標高200~500mの山が点在する里山で、昭和61年に高槻原銃禁区域(494ha)に指定された地域の中にあります。この南部に芥川の支流でへび谷(全長約1km)とジャラ畑谷(全長約2km)という短い1994年の大旱魃でも水が涸れなかった沢があります。この流域、約100haでの出来事です。そこへは私も以前から自然観察や野生哺乳動物のフィールドサイン(野生動物の食べ痕、糞、足跡等の生活している目印のこと)を調べるため通っています。



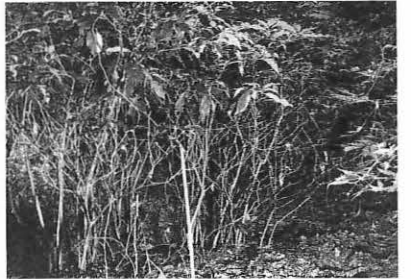
シカの足跡

このへび谷の源頭で1985年にシカの糞を発見して以来、月平均2~3回シカを重点に調査しています。それまでこの地域でシカの足跡や食痕(食べた跡)を見る事がなかったこと、地元の人に聞いても「こんな下でシカを見たことはない!」とのことから新たに野生のシカがここへ来たものとみてよいと思います。

糞のつぎに足跡とアオキの食痕を見つけました。一般にシカの食痕は、上あごに歯がないため植物をむしり取ったようになり、切れ端に繊維が残り他の動物のものとは区別できます。しかし、アオキへの食痕はアオキの節が折れやすく切断面がスッパリと切れた状態になるためシカのものであると断言できるまでにはかなり苦労しました。

1985年から1993年までの私のフィールドノートにある食痕の記録によると17科20種の植物でヒノキの新芽と樹皮を別にすると21種類の食べ物を食べていることとなります。その内訳(%)はアオキ57.48、ヒノキ11.02、ジャノヒゲ5.51、イヌツゲ3.94、ヤブラン3.15、ネザサ、アラカシ、スギ樹皮各2.36、ハナイカダ、ヒノキ樹皮各1.57、オニヤブソテツ、ユズリハ、ネジキ、ミョウガ、ヌマガイコン他6種各0.79となっています。

適切な資料を持っていませんが、他の地域(能勢の剣尾山、箕面、茨木の山)の野生シカと比較



まだ枯れていないアオキの群落

して、この地域のシカはアオキの偏食性が非常に強いといえそうです。アオキは上部の刈り取りに強い植物ですが、シカは自分の行動コースの沢筋や縄張り付近のアオキを集中的に食べるので、1990年頃からアオキの立ち枯れが目立ってきました。1988年1月に750cm×200cm内に65本の株だけがあつたアオキの群落が、1995年1月には21本になり、地表より平均150cm以上に葉をつけている



小さなものはほとんど枯れたアオキの群落

株がわずか7本残っているだけで、残りは萎縮した小さい葉をつけて枯死寸前の状態のものでした。ここでは何頭のシカによる影響かをみてみましょう。サイン出現指数(フィールドサインの質、量に点数をつけこの地域を250m×250mに区切ったコドラート毎にサインの点数を加算し、それをその年の総点数で割ったものに100を掛けた指数)や1987年にオスジカを含む4頭1家族の目撃例とその後、1990年までの間に5例の目撃例があり、また発情期のオスジカの鳴き声による推定から私はサイン出現指数の一番大きい1990年(70.23)に、この地域100haには5~10頭のシカがいると推定しました。

また、大打撃を受けたアオキですが、アオキは株立ちした茎がなくても小さな葉をつけた茎で地面を這い株立ちのチャンスを持つという性質があります。幸にシカのフィールドサインも周辺に分散しており、これ以上アオキにとっての激しい食害は起こらず、絶滅は避けられると思います。

このように動物が植物に影響を与え、動物も植物(食物やすみか等)によって大きく影響され、お互いうまく関わり合っていることが分かります。(いけだ ひろかず)

(編集部注)

コドラート:動物調査のため設けた一定の区画

# 退職にあたって

## 私と動物の関わり

役所歴36年を振り返ってみますと、30年間はひたすら食肉衛生検査一筋に、従事してきました。その間、多くの先輩や後輩が他の職場に転勤していく中であって、私だけは例外的に同じ職場に留っていました。異動の時期を迎えても私の場合、転勤のことなどそれこそ他人事でした。色々な苦勞は伴いましたが、役所に居ながら、大学の研究室なみの研究が続けられるというのは、学生時代からの希望でもありましたし、それだけにやり甲斐のある職場でした。

ご存じの方はあまり多くないと思いますが、食肉が店頭で販売が許可されるためには法律で定められた衛生基準



コアラの命名式にて(平成5年8月1日)

に合格しなければなりません。それを判断する仕事は、屠(と)畜場で行われている食肉検査という仕事です。診断の結果、食用に供してはならないと判断された場合は、施設内で焼却処分され、市場に出回ることはありません。牛1頭でも高価なものになりますと、100万円を超えるものもありますから、生産者の経済的な損失を考えると胸が痛みますが、消費者の立場が優先しますから、廃棄せざるをえません。非常に責任の重い仕事でした。

同じ獣医の仕事でも、動物園のように世間の話題として取上げられる仕事ではありませんが、多くの人の食生活の安全性に関わる仕事を任されているという自負心と誇りが、その頃、私の心の支えになっており、この仕事に骨を埋める覚悟でいました。

ところが平成元年4月、私に初めて物理的な移動を伴う異動を経験することになるのですが、それまで牛と豚の病気の検査で顕微鏡の世界ばかり覗いてきた私には、飼育や臨床を中心とした動物園の世界は、まるで未開のジャングルに足を踏み入れたような不安な気持ち一杯でした。毎日の出勤は、足も心も重く、しばらくはそれこそ登校拒否児童のような心境でした。

驚かれる方がいるかもしれませんが、動物園に来るまでは、どちらかという、動物園などなくてもよいのではないかと思っていました。理由は、動物園が成り立って行くためには、どうしても野

生動物を集めなければなりません。こうした野生動物の需要が、今日の野生動物絶滅の危機をもたらしている元凶だと思っていたからです。

しかし、これは私の認識の誤りであると気づくにはそんなに時間はかかりませんでした。たしかに昔の動物園では、そのような実態があったかもしれませんが、今日ではワシントン条約の規制をまつまでもなく、展示動物の確保は、動物園生まれの動物をお互いに交換しあっているという実態を知らなかったからです。そのために国内はもとより世界中の動物園が協力しあって希少動物の保護や繁殖に取り組んでいる姿を目のあたりにしてやっと動物園の重要さが分かるようになったのです。私はそれまでの認識不足を恥じるとともに、志を同じくする大勢の人達に交じって、私なりにこの仕事に関わりあえる喜びと誇りを感じている間に早くも6年が過ぎ、定年を迎えることになりました。

その間、国内はもとより海外の多くの動物園・水族館関係者と知合いになる機会に恵まれたことは、私のこれからの人生にとって何ものにも替えがたい財産となりました。

定年を目前にして思いだされるのは、つい最近、私の手元に届いた1通の手紙のことです。差出人は、昨年10月シドニーで開催されたコアラ会議で初めて出会ったタロンガ動物園のフィップさんです。

コアラの国際血統管理について、あれほど熱弁をふるっていた彼が、まさかこんなに早く、動物園から身を引くとは思っていません



コアラ会議で発表中のフィップ氏(手前から3人目が筆者)

さんでしたので大きなショックを受けました。彼の場合、動物園での10年にわたる豊富な経験を活かして、身体が自由が利くうちに残された人生をコアラを含めた野生動物の保護活動に捧げたい、というのが引退の理由です。

私も3月末で動物園を引退しましたが、同じ引退でも私の場合は、彼のような高邁な理想もありませんが、せめて日本の動物園の発展のために微力を捧げる仕事ができればと今は考えております。

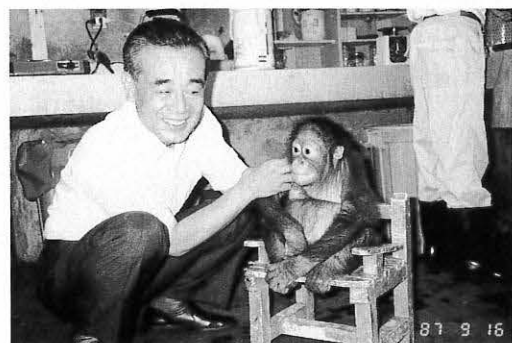
(前所長：中山良三郎)

## 37年間の思い出から

私は、昭和33年11月に天王寺動物園、汽缶室(ボイラー室)に採用され37年間勤務しました。

思い返してみれば、ボイラーへの石炭入れ、それぞれの動物舎の適温調節、昼夜関係なく2時間ごとの温度記録のための巡回、夜勤や隔日勤務などの変則勤務など、初めのころは戸惑うことばかりでした。

少し慣れてきたころ、南園にあったボイラー室の夜勤の日、キリンは寝る時はあの長い首をじょうずにくると回して腰のうえに乗せて眠ると聞いていたので、何度かそっとキリンを驚かせないように足音をさせないように気をつけて行ってみたのですが、何度行っても、あの長い首を立て、かわい目で「何か用事ですか?」と言いたげな様子でこちらを見ていました。動物園の近代化により、南園のボイラー室は廃止され、夜にキリン舎に行くこともなくなり、結局見る機会はありませんでした。



オランウータンの“サブ”と筆者

また、困った思い出の一つには、昭和41年に大阪を襲った大型台風があります。大雨のため園内各所が浸水し、半地下のボイラー室は、本来なら浸水しないように設計されていますが、ボイラー機器の入れ替えのための工事中であったため、1m30cmぐらい水没してしまい、消防車の出勤をお願いして排水してもらいました。

私が、採用された昭和33年ごろは、ほとんどの施設にボイラー暖房が使われていましたが、動物園の近代化に伴い、動物舎や施設の暖房は徐々に電気暖房に切り替わり、残念ながら平成6年5月をもってボイラーの操業は終わりました。その後、定年退職までの1年間は、それまで夏期に行っていました柵や檻などの園内の各施設の整備、補修が仕事となりました。

ボイラーを運転しながら定年退職を迎えることができなかったことは、少し寂しいような気はしますが、危険を伴う仕事を無事に37年間勤めあげることができたことは、多くの人々の理解と協力があればこそと感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、阪神大震災という大きな災害のあった大変な時期ですが、いつまでも子供たちに夢を与えることのできる動物園であって欲しいと願っています。

(元飼育課 汽缶室：吉岡照明)

## 退職を迎えるにあたって

私はこの3月をもって、定年退職を迎えました。生涯の中で、一つの人生の節目を迎えましたが、人生80年といわれる昨今ですので、正直言って複雑な心境です。思い起こせば、昭和41年10月1日から、28年間の動物園生活は、私にとって、ボイラー技師2級の免許取得に始まり、3年後の1級取得、危険物、冷凍機、ボイラー整備士、ガス溶接、電気溶接と資格の取得の連続でした。



ボイラー室での筆者

中でもボイラー技師2級の試験はなかなか合格できず、先輩から馬鹿にされ、なにくそと奮起したことが、その後の資格試験に次々と合格した力となったように思います。今となって考えてみると、多数の免許を取得することができたのは先輩の愛のムチの効果であったと感謝しています。

ボイラー技師の試験に合格した後、一人前のボイラー作業員として、7名体制の一員として認められたことは本当に嬉しく、その年の10月1日の火入れ式は昨日のことに思い出されます。

ボイラー係の仕事は、寒さに弱い動物のため冬の間24時間体制で暖房にたずさわるといって、いわば動物園の裏方の仕事ですが、当時は市長が来園された時のボディガードや、子供の日に行われていたゾウの体重測定の記事にもたずさわるといって、動物園ならではの仕事もありました。

ボイラー操業のない夏の間は、動物舎の補修の溶接作業を行っていましたが、溶接の火花で目を傷めたり、やけどをして顔の皮がはがれるなど、危険な目にもあいましたが、子供たちが興味いっぱい目で動物を見ている姿を見ると、目の痛みは和らぎ、仕事にやり甲斐を感じたものです。

冬の間ボイラー操業中は、前もって勤務予定を組み、24時間体制で勤務するため、子供の学校の父親参観に出席できなかったり、母の手術に立ち会えなかった時には、職務の厳しさを感じたものでした。

長く感じた1年、短く感じた1年、いろいろな思い出が走馬灯のように脳裏に浮かんで消え、一抹の寂しさがこみ上げてきます。今後は動物園で得ることのできた各種の免許を、地域での社会参加などに役立てていきたいと思っています。

(元飼育課 汽缶室：小谷千代治)



グラフ  
ZOO

かなり鋭い爪を  
しています。  
左側は右後ろ足ですが、  
1本の指から2本の爪が生えているのが、  
この動物の特徴です。

眼  
です



まるでネコのような縦長の瞳ですね。夜行性の動物かもしれませんよ。

耳  
です



とても毛深くて耳タブが見えません。寒い所の動物かもしれません。

お尻  
です



どうやら尻尾は無いようですが、もしあったとしても短かそうですね。

鼻と口  
です



鼻の穴が大きいのが特徴かもしれません。ちょっと顔を出した歯が可愛いですね。

# 私は誰〜れ???

今月は人気の動物でグラフZOOを構成しました。ただし、ある動物の体の一部分の拡大写真です。どんな動物なのか分かりますか？（撮影：長瀬健二郎）



正解

は



コアラでした。とても人気があり、皆がよく知っているコアラですが、こうして体の一部だけ見ると少し分かりづらかったかもしれませんね。

# 獣医室から

64

## § 個体識別いろいろ

動物園で飼育している動物の由来や経歴は、全てチェックし記録してあります。たとえば、誕生日や死亡日、治療した日やその時の状態などのデータはそれぞれ動物台帳や個体カードやカルテに記録してあり、各動物の飼育期間や寿命、病歴などが簡単にわかるようになっていきます。しかし、該当する個体を識別できなければこれらのデータを記録することはできません。

1頭もしくは1つがいで飼育している場合は識別するまでもありませんが、複数で展示している動物の中から特定の個体を識別するのはかなり困難です。この問題を解決するために動物園では様々な方法を用いて個体識別を行っています。今回は動物の個体識別方法について紹介します。

### (1) 外貌識別法

体の色・柄・体格・顔など外見上の特徴から識別する方法です。たとえば、シマウマの縞模様は一生を通じてほとんど変化しません。また各個体で異なりますので、この模様を写真やスケッチで記録し識別します。この方法は最も基本的な方法ですが、熟練を要します。

### (2) 耳標法

哺乳類、特に家畜で利用されている方法で、外見上の特徴の差があまりない場合に用います。耳標には数種類の大きさと色があり、それぞれには番号が印されています。当園では年ごとに耳標の色を変えています。また、オスの場合は左の耳に、メスの場合は右に耳標をつけていますので、遠くからでも耳標をみるだけで誕生した年や入園した年、性別がわかるようになっていきます。当園ではヒツジなどの



バーバリシープの耳に付けた耳標

家畜類の他、バーバリシープなどにも使用しています。

### (3) 入墨法

耳標をつけることができない動物に用いる方法です。夜行性動物舎に展示しているエジプトルーセットオオコウモリの体はかなり小さく、その耳は長さ約2cmほどしかありません。当園で使用している耳標は直径3cmもあり、これをつけることはできません。そこで、電動式入墨器を使って耳の内側に番号を入墨します。この方法は一部のサル類にも使用しています。サル類は手先が起用なので耳標を付けてもすぐ取ってしまいます。そこで毛の薄い部分、たとえば太股の内側や顔に入墨を行っています。

### (4) 脚帯法

動物の足にリングをつけて識別する方法で、鳥類によく用います。当園では番号を刻印した帯状のアルミニウム製リングとプラスチック製のカラーリングを使って



ニホンコウノトリにつけた脚帯

が左足についている場合は当園でふ化した個体で、右足の場合は入園個体です。アルミリングのついた足と反対の足に付いているカラーリングはその色でふ化や入園した年がわかるようになっていきます。また、脚帯の他に翼にも翼帯を付けています。これは、脚帯が脱落した場合の補助的な役目を担っています。

### (5) マイクロチップ法

米国で開発され、国際的に広く利用されている方法です。コード番号を記憶したICの入ったガラス製チューブ(マイクロチップ)を動物の皮下に挿入し、その番号を読み取り機で読み取り識別するものです。このマイクロチップは長さ約1cm、太さ約1mmと非常に小さく、外見上まったく違和感がありません。また、半永久的に使用できる優れた方法です。現在、当園では試験的に爬虫類や一部の哺乳類で使用しています。

当園では、今回紹介した個体識別法以外にも幾つかの識別法を使用しています。いずれもそれぞれの動物の形態や習性に適し、見た目には違和感が少なく、できるだけ動物に痛みやストレスのない方法を用いています。今度来園した時は、これらの個体識別法にも注目して下さい。個体識別ができるようになれば、各個体の面白い行動やくせが見えてきます。

(飼育課：竹田 正人)

2/1. 1月に保護したホシハジロのオスを“鳥の楽園”に展示しました。足のケガで自然復帰できないためです。

### 2月2日

ホオアカトキ10羽とハダダトキ4羽を東京都多摩動物公園からいただきました。検疫が終わり、



“鳥の楽園”に展示する予定です。

キイロアナコンダ3頭を仙台市八木山動物公園からいただきました。

2/3. 爬虫類生態館に展示予定のトカゲ類2種4頭、カメ類2種4頭が入園しました。オープンに向け着々と準備を進めています。

2/6. オランウータンのオス“サブ”が風邪をひいたので投薬を始めました。

2/7. ゴイサギを1羽保護しました。

走鳥舎のエミュが今季7個目の卵を産みました。

2/8. 昨年12月に保護したシロハラなど合計3種5羽の鳥が元気になったので自然復帰させました。

### 2月9日

昨年生まれのトカラヤギのメスが角を折りました。状態は予想以上に悪く、残念ながら角を取り除く手術を行いました。



2/10. オウサマペンギンが産卵しました。

2/11. アオバトを1羽保護しました。

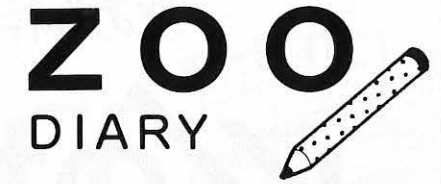
2/12. ニホンコウノトリが交尾しました。

2月13日 “鳥の楽園”で展示しているシュバシコウの繁殖のための巣材として、柳の



小枝を擬木の巢台に上げました。安全ベルトとヘルメットを着用した係員が5m~10mの高さにある巢台に登って作業を行いました。柳の枝は市内の公園からもらってきたものです。

## 今月もおもしろ情報満載



### 2月14日

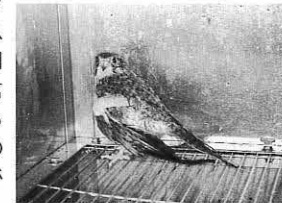
2羽のオウサマペンギンが産卵しました。2月10日に産卵したものを合わせて3羽が抱卵中です。うまくいけば4月中旬にふ化するでしょう。

昨年12月21日に産卵したフンボルトペンギン2つがいの卵が、同じ日にふ化しました。



### 2月15日

チョウゲンボウを1羽保護しました。翼をケガしていたので、すぐに治療しました。チョウゲンボウはハヤブサの仲間の小型の猛禽で、背中から翼にかけての茶褐色の羽が特徴です。



2/17. 爬虫類生態館に展示予定のオオサンショウウオ5頭を広島市安佐動物公園からいただきました。

2/19. ヤギのオスの蹄が伸びていたので切りました。

2/20. ライオンのメス1頭を白浜のアドベンチャーワールドからいただきました。検疫が終わり、ライオン舎のオリの展示室に展示する予定です。

2/21. 今季最初のトカラヤギが生まれました。

2/23. 今季最初のヒツジが生まれました。

2/25. カルガモを1羽保護しました。

2/26. エミュが今季13個目の卵を産み、初めて自分で抱き始めました。

2/28. ヤギの双仔が生まれました。

### ■お知らせ■

●「春の動物と花のフェスティバル'95」  
4月23日(日)~5月5日(金)

●動物園のおじさんのお話  
「は虫類生態館ガイド」  
日時：5月21日(日)午後1時~  
場所：は虫類生態館

愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



## 生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光／監修  
B5変型判・オールカラー  
定価680円

動物園で暮らす様々な生き物達、  
自然の中ではどんな暮らしをして  
いるのか？ 動物園での世話  
の仕方は？ 仲間とは？ など、  
写真と精密イラストをまじえ紹  
介します。

〈くらしとかいかたシリーズ〈既刊本〉〉

B5変型判・オールカラー・各定価680円

### むしくらしと かいかた

野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

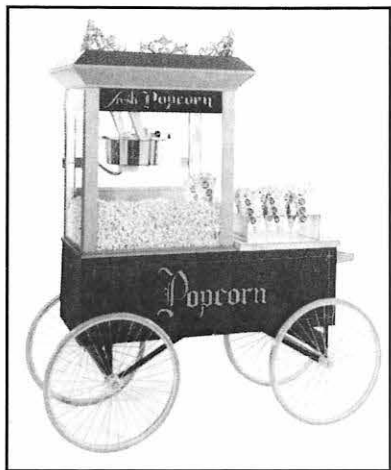
### ちいさないきものくらしと かいかた

昆虫以外の小さな生き物を320  
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。



ひかりのくに株式会社 本社／〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



## マスタのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他  
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30  
TEL (06) 865-0165

## 新・きれいな色 FUJICOLOR SUPER ACE 400



### カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
阪急三番街店 ☎372-5031

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

# 動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理する  
とともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家  
を紹介した本邦動物文学の母胎です。

〈研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載〉  
会費／年1,500円 (切手72円・呈既刊号目次)

## 動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」  
19分(10本常備)

- 対象／保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間／10日間
- 貸出料／無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先／当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800(50度用)

## 天王寺動物園の本

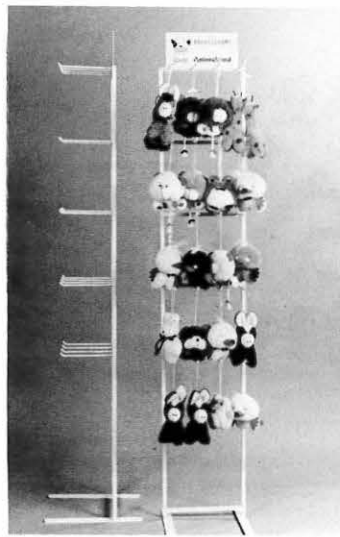
入園の記念・手引に……



オールカラー

500円 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

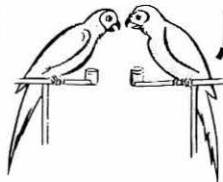


# 動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

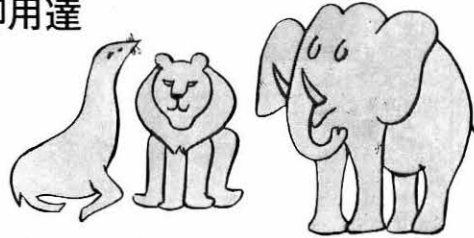
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号  
TEL: (06) 704-8580  
FAX: (06) 704-8565



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

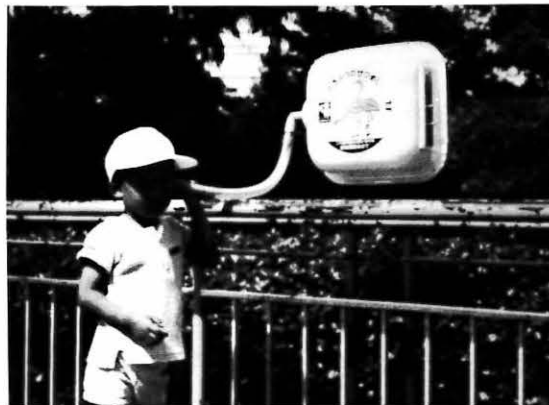


## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

### たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

### 動物園内での お食事、 ご休憩は

動物園内.....

## 中央売店

TEL 06-771-0973



お食事・飲み物・おみやげ 動物園内  
**南園売店** TEL 06-771-7110



### 思いやり、ほんの少し、コアラのために。



多くの思いやりが、ひとつになって、オーストラリア・コアラ基金を応援します。

多くの人に支えられて育ってきたコアラのマーチ。

一方、コアラのふるさとオーストラリアでは、シドニー近郊の山火事などにより、コアラたちの安住の地が年々少なくなっています。

そこで、ロッテでは、コアラのマーチ誕生10年を記念するキャンペーンを実施するとともに、

コアラを取りまく環境を守ろうと、オーストラリア・コアラ基金(1986年設立)のゴールドスポンサーになりました。

コアラのマーチを支えてくれる皆様の思いやりがひとつになって、オーストラリア・コアラ基金を応援いたします。

**LOTTE**





Our Yogurt has fruity  
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と  
覚えてね。



「ほりたてミルクのおいさが、生きている。」

雪印  
**オガル**



希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)

HIJIRI-KOJIMA



一日  
愉快地  
たのしめる



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

**久竹娛樂株式会社**  
TEL (06)541-3938(代)

なきごえ 1995年4月10日発行 (毎月10日発行) 第31巻 第4号 (通巻356号)

編集 / 大阪市天王寺動物園事務所

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 00930-2-37823

編集委員 (中山良三郎 / 岩倉善樹 / 増野悦敏 / 樽本 勲 / 中川哲男 / 山根和弘 / 吉本昌俊 / 谷森 進 / 宮下 実 / 長瀬健二郎 / 榎原安昭 / 森本委利 / 中上正幸 / 堀内智生 / 小林崇宏 / 竹田正人 / 大野尊信 / 野口秀高 / 早川 篤 / 土谷正道 / 村上勇一 / 仁田原洋)